

# 隨泉寺寺報

平成 21 年 (2009 年) 6 月号 第 466 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

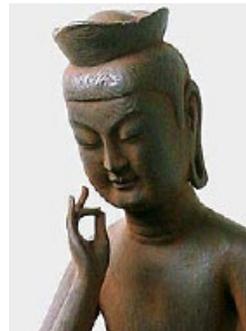
前期門信徒講座

講師 円光寺住職 谷川 修真師

講題 『一番大切なものは何ですか』

今回の御講師の先生は広島の中区東白島長の円光寺住職 谷川修真先生です。『一番大切なものは何ですか』という御講題を頂きました。本当は『1、一番大切なものは何ですか 2 何を信じて生きていますか?、3 本当に求めているものは何でしょうか、4 この私として生まれてきたことをどのように受け止めていますか?』の私の真宗入門ともいえる4つの問題を提起していただきました。どの問題もすぐには答えられない大きな問題です。

米沢英雄先生は、『人とは何か』、『私とは何か』、『救われるとはどう云うことか』を明らかにするのが仏法だと仰っておられます。そして、「その私というものを明らかにするために仏というものがあり、浄土というものもある。或いは浄土というものの力を借りなければ、人間というものが明らかになら のではないかという意味において、仏とか浄土とかがあるのであって、仏とか浄土というものはただ有るとか無いとかの問題でなく、人間というものを明らかにする為に必要なのです。」と説明されています。



## 6月の法座予定

- 6月 7日 …… 掃除 上平原第二
- 6月 14日 昼席午後1時より …… 前期門信徒講座
- 6月 14日 夜席午後7時より …… 出張法座 上平原集会所
- 6月 15日 朝席午前10時より …… 前期門信徒講座 門信徒会総会 おとき
- 6月 15日 昼席午後1時より …… お父さんの集い
- 7月 2日 午後6時より …… 本部役員会

## ☆ 門信徒会総会

門信徒会の総会を開催します。今年は5月が前住職の一周忌の法要を勤めたので一月遅れで総会をします。去年の行事報告、決算や、今年一年の行事予定、予算を審議していただきます。

此の頃思うことですが、組織に入ることを嫌うという風潮が出てきました。町内会や子ども会、またPTAでさえ入りたくないようです。個人を大事にするといえは聞こえはいいのですが、結局は個人中心主義なのでしょう。戦後日本は個人を大事にして自立する社会を目指してきました。その結



、私がよければそれでいいと言う独りよがりの、相手のことを思わない、情けない社会になってしまいました。それに拍車をかけたのが個人情報保護法と言う悪法です。病院にいても誰が入院しておられるのか名札が無いのでわからない、小学校も連絡網が作れない。人と人のつながりが切れてしまいました。自分が強くなればよいと言っても所詮人間は一人では生きていけません。多くの人々のお世話になって、助けられて生きているのです。

しかしこれからは【共に生きる】組織が、重要になるのではないかという気がします。いや必ず必要となるでしょう。日本再生の切り札と言っても良いかもしれません。仏様の願いは【衆生】とすべてのいのちに注がれます。すべてのいのちが救われるから私も救われます。自利利他と言うことは私と他の人とは離れて存在しません。いまこそ御同朋、御同行という親鸞聖人の歩まれた道が光を放ってくるのです。門信徒会はその意味で大切な組織です。



## ☆お父さんの集い6月15日昼席(午後1時より)

去年の3月はマツダも創業以来一番利益が上がったとっていました。それが一年経ったら、百年に一度の不況と言っています。本当に明日のことはわかりません。一週間で働くのが3日と言う人もいます。あてにしていたものが足元から音を立てて崩れていくような気がします。1月から3月までの自殺者が8500人だそうです。それも40代から60代までの働き盛りのお父さんが多いようです。



なぜ男の人のそれも働き盛りの人が多いのでしょうか。原因は色々言われていますが、結局は本当の拠り所を持っていないということなのでしょう。家族の中で一番中心だと思っているお父さんは誰にも頼ることが出来ず、独り悩んでそして、……。

今こそ私を支えてくれる確かなものに出会うときです。そのために仏様がおられます。本願があります。念仏があります。

## 願われていた私

## 赦してもらって生きていた私

北村君は、貧しい母子家庭の子どもで、小学三年のときから、八年間、毎朝三時半に起床、町中を新聞配達し、終ると勉強、朝食を済ませて登校、学校が終ると、とんで帰って、町中、夕刊配達をしている子でした。お母さんが厳しい方で「おまえの本職は勉強だ。学校でいねむりなんかするようなら、新聞配達をやめてしまえ」と、いっておられるとも聞いていました。夏の日など、他の子どもの中にはいねむりをする子があっても、彼は、どんな暑苦しい日でも、背すじをピンと伸ばして、にらみつけるような目で、授業を受けるのでした。



「北村君、何？」と、私が指名すると、「先生、ああと口をあけると、喉の奥に、上から下がっている、ぼくらが『ノドチンコ』と呼んでいるものが見えてきます。あれは、どういうはたらきをしているものですか」と申します。私は、困ってしまいました。「ノドチンコ」と呼んでいるものが存在していることは知っていましたが、そのはたらきは全く知りませんでした。

そのはたらきに疑問をもったこともありませんでしたし、教わった記憶もありません。「北村君、申しわけないが、私にもわからん。今夜、調べてみるから、すまないが、明日まで答えを待ってみてくれないか」としか、言いようがありませんでした。

その日、学校図書の中から、人体に関する書物を風呂敷いっぱい借りて、私は、下宿に帰りました。夜半すぎ、やっと解りました。

口から入った食べものは、食道を けて胃に送られるわけですが、喉の奥で、食べ物が ける「食道」と、鼻から吸いこんだ空気が「肺」に進む「気管」とに、道が岐れています。その岐れ道で、もし食べものが「気管」の方に進むと窒息してしまいます。

そういうことにならないようにするために、食べものをのみ込むときには、あの「ノドチンコ（ほんとうの名前は『口蓋垂』）」が、気管の入口を、ピタリと蓋してしまうのだそうです。そのおかげで、まちがいなく「食道」に進み、「胃」に進むのだそうです。

そして、気がついてみたら、「ノドチンコ」だけではないのです。「目」があって、それがどんな仕組みになっているのか、何でも見せてくださるのです。「耳」があって、どういう仕組みになっているのか、何でも、聞かせてくださっているのです。鼻に穴があいていて、呼吸がはたらきづめにはたらいていてくださっているのです。こ

の呼吸がとまったら、忽ちのうちに死んでしまわなければならない呼吸です。いのちにかかわる呼吸です。そのいのちにかかわる呼吸を、その主人公である私は、忘れっ放しなのです。その忘れっ放しの私のために、夜も昼も、土曜も日曜も、盆も正月も、一瞬の休暇もとらず、はたらきづめにはたらいていてくれるのです。「口」があり、「口」には「歯」があり、「舌」があり、食べものを噛みこなすはたらきをしていてくれるのです。食べ物が「胃」に入り「腸」に進み、血にし、肉にし、骨にし、はたらきのエネルギーに変わっていくのです。胸の中では、「心臓」が、これも年中無休ではたらいてくれているのです。「生きている」つもりでいたら、何もかも「生きさせてもらっていた」のです。仏さまは、私の中で、私といっしょに、私のために、忘れっ放し、逆きっ放しの私のために、生きてはたらいてくださっていたのです。

「北村君ありがとう」「北村君ありがとう」私は、そうつぶやかずにはおれませんでした。私は、こうして、北村君のおかげで、「生かされていた私」「願われていた私」「祈られていた私」「赦してもらって生きていた私」に、目覚めさせていただいたのです。

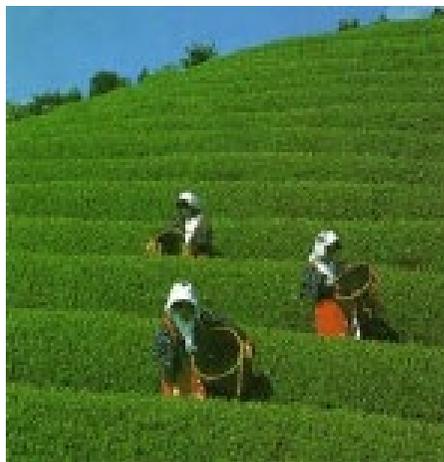
## 喫茶去（きっさこ）

夏も近づく八十八夜 野にも山にも 若葉が茂り・・・新茶のおいしいときです。八十八夜は春から夏に移る節目の日、夏への準備をする決まりの日、縁起のいい日とされてきました。

また、八十八夜の 霜のように、この頃から霜もなく安定した気候となり、茶摘み、苗代のもみまき、蚕のはきたてなど一 に農作業の目安とされています。

しかし「八十八夜の忘れ霜」「さつき寒」とも言い、急に気温が下がって霜が降り、農作物や 樹に思いがけ 被害を与えることを警戒したことばもあります。

霜なくて 曇る八十八夜かな 正岡子規  
朝から晩まで、あれやこれやと思い回らす心をひと休みして、お茶一杯の味わいの中に、ひたっていると、一切のわだかまりも融けて、心も開放されて来るのです。



ある修行僧が悟りを啓いた高名なお坊さんを訪ねて、禅問答に挑みました。肩に随分力が入り、理屈・理論を並びたてるその修行僧に、『まあ、お茶でも一杯飲んで行きなされ』と爽やかに対応したと言う。

悟りを求めてあれこれと頭を使い、頭を悩ます事も大切だけれど、頭を使えば使う程に、悟りからは遠くなりそうです。私達の日常生活でも、理屈・理論に拘って、頭で解決しようとしがちですが、落ち着いて、お茶の一杯を体全体で味わえる、素直な態度、上下（かみしも）を脱いだ真っ白な心を持ちたいものです。